

Dirty limit. Quasiclassical Green function θ -parameterization

岡田 大 (Okada Masaru)

October 24, 2025

磁場が入っていない Usadel 方程式は次式で与えられる。

$$iD\vec{\nabla}(\check{g}\vec{\nabla}\check{g}) + \check{H}_0\check{g} - \check{g}\check{H}_0 = 0, \quad (1)$$

ここで、準古典南部 - グリーン関数 \check{g} と非摂動ハミルトニアン \check{H}_0 はそれぞれ

$$\check{g} = \begin{pmatrix} g & f \\ -f^\dagger & -g \end{pmatrix}, \quad \check{H}_0 = \begin{pmatrix} -i\omega_n & -\Delta \\ \Delta^* & i\omega_n \end{pmatrix}. \quad (2)$$

g (f) は (異常) グリーン関数、 Δ は超伝導ギャップで定数である。

特に、一様な状態では、グリーン関数は次のように書ける。

$$g = -\frac{\omega_n}{\sqrt{\omega_n^2 + |\Delta|^2}}, \quad f = \frac{\Delta}{i\sqrt{\omega_n^2 + |\Delta|^2}}. \quad (3)$$

松原周波数 ω_n は、(遅延) 解析接続によって次のように拡張できる: $i\omega_n \rightarrow E + i\eta$

ここで、超伝導励起エネルギー $E = \sqrt{\varepsilon^2 + |\Delta|^2}$ は実数であり、 η は無限小の正の数である。

\check{g} は、 $\text{Tr}\check{g} = 0$ かつ $\det\check{g} = 1$ という、2次元回転行列の条件を満たす。

したがって、 \check{g} は $\theta(x)$ を用いて次のようにパラメータ表示できる:

$$\check{g}(x) = \begin{pmatrix} \cos[\theta(x)] & \sin[\theta(x)]e^{i\chi} \\ \sin[\theta(x)]e^{-i\chi} & -\cos[\theta(x)] \end{pmatrix}. \quad (4)$$

ゼロ磁場では位相 χ は定数であり、 $\chi = 0$ と取っても良い。

常伝導金属中での Usadel 方程式の (2,1) 成分は、以下の形をとる。

$$-iD\frac{\partial}{\partial x}\left\{\cos[\theta(x)]\frac{\partial}{\partial x}(-\sin[\theta(x)]) + \sin[\theta(x)]\frac{\partial}{\partial x}\cos[\theta(x)]\right\} = 2i\omega_n\sin[\theta(x)]. \quad (5)$$

さらに、以下の関係式を用いることで (これは合成関数を微分しただけ)。

$$\frac{\partial}{\partial x}\sin[\theta(x)] = \cos[\theta(x)]\frac{\partial\theta(x)}{\partial x}, \quad \frac{\partial}{\partial x}\cos[\theta(x)] = -\sin[\theta(x)]\frac{\partial\theta(x)}{\partial x}. \quad (6)$$

解析接続を行うと、得られる式はより簡単な形になる。

$$D\frac{\partial^2\theta(x)}{\partial x^2} + 2iE\sin[\theta(x)] = 0. \quad (7)$$